

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	家電量販店（店 長）	販売量の動き	・家電エコポイントの点数が12月よりほぼ半減するた め、駆け込み需要が多い。
	やや良く なっている	一般小売店〔精 肉〕（店長）	販売量の動き	・来客数が増加しており、客単価も上昇している。
		百貨店（売場主 任）	販売量の動き	・単価低下傾向はあるものの、客のライフスタイルに 合致したものは堅実に販売できている。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・今までにみられなかった客の動向は、関連商品買 い、まとめ買いがみられることであり、購入単価が上 昇している。季節ものの手袋やマフラーなどは、今ま では吟味して1点買いだったものが、最近になって複 数点数の購入が見られたり、高級布団であっても掛け 布団、敷き布団セットで購入するなどの動きがみられ る。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・冬物商材の動きが良くなっている。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・消費購買動向は、商品により格差があるが、低迷し ていた衣料を中心に購買意欲が高まっている。猛暑から の厳冬予測が需要に結びついており、子ども手当の 給付も景気を後押ししている感がある。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・家電エコポイントの駆け込み需要は当然あるが、対 象外商品も好調に推移している状況である。単価の面 でも高機能機種に人気がある。
		住関連専門店 （店長）	来客数の動き	・新築・増改築などが増えており、来客数が増加して いる。要因は住宅ローン減税による効果と思われる が、この後が怖い。一時的なものではと考えている。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・リーマンショック以降、前年売上を割り込んできた が、10～11月と前年を上回る売上を確保し、下げ止ま りの手ごたえを感じる。2年前に比べ客単価は15%程 度低下したが、客数が前年を大きく超え始めている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・冬季メニューの効果が始めている。前年は新型イ ンフルエンザの警報発令などで一番落ち込んだ時期で あることから前年比は好調に推移している。家電エコ ポイント制度変更前の家電量販店のセールに出かけた 客が、帰りに来店することも多かった。
スナック（経営 者）	来客数の動き	・将来の不安な要因があるなかでは、ある水準以上 には「今忙しい」や「ゴルフの話題」など客の様子にゆ とりを感じることもある。しかし、その他では厳し く、当業界でも閉店する店舗が多く、二極化が鮮明に なっている。		
変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・新鮮味のあるデザイン性の高いアウターなどが売れ ている。低価格で均一感のあるものに飽きがみられる が、その傾向は秋口からである。	
	商店街（代表 者）	単価の動き	・これまでは中級品の動きが悪く、高額商品かお値打 ち商品が売れるという状態であったが、最近はお値打 ち商品しか売れなくなっている。エコポイント商品に 代表されるような、お得感がなければ買ってもらえな い。	
	一般小売店〔鮮 魚〕（従業員）	販売量の動き	・一時期のようにすべてが下がり続ける感じはなくな った。一部の取引先では売上の回復が現れ始めている 。	
	一般小売店〔書 籍〕（従業員）	販売量の動き	・来客数は横ばいであり、販売数、売行きは良くも悪 くもない。	
	百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・イベントなどによって一時的に1日の来客数の伸び がみられるものの、1か月単位では前年を下回ってい る。	
	スーパー（店 長）	単価の動き	・「衣」「食」「住」の平均買上単価をみると、 「衣」「食」は全体で約200円の低下がみられる。 「住」は、家電エコポイントの駆け込み需要の影響も あって若干上向いている。総合すると低下傾向であ る。	
	スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数、売上高共に伸び悩んでいる。	
	スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・気温が低下し暖房器具の売行きが好調である。前年 より20～30%上昇している。	

	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・たばこの値上げの影響も少なくなり落ち着いてきた。たばこの単価が上がり、その分購入する客が減少しているのが現状である。
	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・たばこ増税に伴う駆け込み需要の反動がまだ収まらない。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・前年と比較し天候が順調に推移したものの、アウターの動きは前年並みであった。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・気温の低下によりコート類が動き始めたが、これも天候次第である。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数についても、単価についても低調なままで変わりが無い。客の話からは、質素な生活に没頭している様子がうかがえる。
	衣料品専門店（総括）	単価の動き	・来客数はそれほど減少していないが、1点単価が下がったままで買上点数も伸びてこない。
	家電量販店（経営者）	お客様の様子	・家電エコポイント対象商品のテレビ、エアコン、冷蔵庫が異常に売れている。業界としてもこのチャンス逃すわけにいかず積極的な宣伝を行い、またマスクによるパブリシティも含めあおっている状況である。これらの要因により客は今買わないと大損するような気になりなだれ現象が起きている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・生産が若干回復してきた企業取引先もあるが、個人取引先も含めた全体としてはまだまだである。
	その他専門店 [医薬品]（営業担当）	単価の動き	・来客数に変化はみられないが、1点単価は3か月前と比較すると5%程度低下しており、買上点数で補っている。この構図は変わっていない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・入込客数は、前年並みか若干増加となっているが、消費単価が低く売上では前年より低下している。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比98%、宿泊人数は同99%、宿泊単価も同99%となった。宿泊人数、消費単価ともに前年実績をほぼ維持できたことにより前年並みの売上が確保できた。宿泊売上として定型宿泊プラン以外の別注料理、花代が前年を超え、昼食日帰り、婚礼が前年割れとなっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン、宿泊共に利用人数の減少が続いている。特にレストランでは夜の利用人数の減少が目立っている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門、宴会部門は好転しているが、レストラン部門は苦戦を強いられている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・収益的には微減であるが、前年並みの販売高を確保している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・毎年11月後半に見受けられる忘年会のはしりが、今年はまだないようである。
	通信会社（社員）	それ以外	・地域の中小企業経営者と懇談する機会が多いが、景況の好転や悪化も無く、低迷状態から横ばいのまま、抜け出せていないという感想を持っている人が多い。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・家電エコポイント制度によるデジタルテレビの売行き好調の恩恵を受け、ケーブルテレビにおけるアナログ契約からデジタル契約切替え及びデジタル契約の新規受注は引き続き好調に推移している。
	美容室（経営者）	それ以外	・12月の商品販売キャンペーンの予約が好調である。しかし客数が前年を下回る傾向は依然続いている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築部門は横ばい、増改築は微増と大きな変化はない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・住宅版エコポイント制度が期間延長しても、来客数の動きに変化が見えない。
やや悪くなっている	一般小売店[事務用品]（営業担当）	お客様の様子	・店頭販売にしても、企業回りをしても「ものが売れない」とか「注文がない」といった話が聞かれ、こちらの商品販売も実績が上がってこない。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・客は無駄な商品を買うことがなく、買上点数ならびに客単価が下落している。他社との競合状況も大変に厳しく、価格競争に陥っていることも一つの要因と考えられる。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこ特需の反動は予想していたよりは少なかったが、売上全体では前年比96%と前年を下回った。特にコンビニ弁当は一般の客からは見限られている。

		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車への代替え提案をするも、春先まで様子を見よとの返事が多く、受注が全くとれない。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は前年同月比50%を下回っている。9月に新車購入補助金制度が終了した影響もあるが、それ以上に落ち込んでいるように感じられる。
		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・自動車内の電気機器関係の数量、金額ともに前年割れの状況で特に単価の落ち込みが大きい。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・法人需要の回復がままならず、福利厚生やレクリエーション費用にまで予算が回らない状況が続いている。業績に直結するMICE需要にも影響が拡大する懸念がある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・年末を前にして買物を含め節約志向がみられる。ボーナスもあまり期待できないとする客が多い。そのため高級品の節約が特に目についている。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・全体的に客の動きが停滞している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の人気商品も在庫の品薄により販売できない状況にある。また、新商品が出始めたが予想以上に客の興味を引かないため販売につながらない。
		競輪場（職員）	単価の動き	・1人当たりの購入額に着目すると車券購入額がやや減少している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・前年比では前月まで売上増加が続いていたが、ここに来て販売量が減ってきた。客の動きはあるが販売につながってこなくなってきた。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベントでの集客数は望めるが、同業他社との競合も多い。客が慎重になっていることもあって契約までの商談期間がかなり長くなっている。
悪く なっている		スーパー（店長）	来客数の動き	・気温の低下につれ、客の出足が悪くなっており、購入する物にも変化がみられる。また、野菜の価格高騰により他の食材を買い控えている。
		コンビニ（店長）	それ以外	・たばこの値上げ前の駆け込み需要があった時期と比較すると売上は悪い。たばこの値上げで買い控え、禁煙の客が多いようで全体的にみると売上が減少している。ただ、たばこを除いて考えると売上は横ばいが続いている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・エコカー補助金の終了後、独自の購入支援策で攻勢をかけているが一向に上向かない。実際に購入の場合も、数社を見比べる傾向が顕著で、時間がかかり中身も厳しい。
		乗用車販売店（経理担当）	来客数の動き	・10月以降、自動車販売台数、売上など新車販売部門では大変悪くなっている。エコカー補助金政策の終了により車への関心が弱まっている。景気対策として、家電エコポイント、住宅版エコポイントなどが継続中であるが、根本的な経済対策のためには景気の良い状況の時にこそ施策を打つべきであろう。
		その他専門店[酒]（経営者）	販売量の動き	・景気が悪いなか、上向くどころか悪くなる方向にいつている。世の中の暗いところにしか客の関心が向いていない。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・来客数については、団体営業を中心に販促展開を行った結果、前年よりやや持ち直した。個人客を含めた全体の総数でも、前年比3～4%減にまで持ち直したものの、消費単価が同10%を超える減少となり、総売上もその影響を受け大きな減少となった。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・10月末に東京で開催された見本市以降多くの受注及び引き合いがあった。ようやく設備投資意欲が出てきている。
		司法書士	取引先の様子	・比較的高額な分譲マンションが売れ出している。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・安価な商材だけが伸び、既存の付加価値の高いものは10%程度落ち込んでいる。販売価格の低下が主な要因であり、全体的に5～10%の落ち込みが顕在化している。数量の落ち込みと共に影響がある。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・足元の受注については勢いが弱まっているものの、堅調に推移している。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年内は、衣料・非衣料とも3か月前と大きな変化がみられない。	

		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量については大きな変化が無く、高水準で推移している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず住宅市場は良ならず、受注量に変わりはない。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今シーズンに向けての商品開発が奏効し、国内・海外販売とも今のところ一定の売上げを確保しているが、今後の為替動向が心配される。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・輸送にかかわるコストは上昇しているが運賃は低下する傾向にある。したがって、荷動きが良くなったにもかかわらず、利益が出ない傾向にある。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の受注量、販売量の動きはやや落ち着いた傾向がみられる。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・家電エコポイントの制度変更に伴い、家電量販店がチラシサイズを拡大している。
		税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の中小企業の様子では、全体的に下がっている状態がここ半年間ほど続いている。先行きの見通しについても業種によってばらつきがあるが、大きく盛り上がってくる傾向にはない。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・年内はある程度受注が見込める状況で推移しているものの、年明け以降の受注が入りにくい状況になっている。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・夏以降、公共事業の発注がどの発注者からも少なくなっているが、特に新規の土木工事現場を見ることは無くなっている。統計数字からだけでなく町の風景からも景気の低迷が感じられる。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・最近の円高などにより燃料費はいったん下がったものの、ここへきて再び上昇し始めておりコスト増となっている。また、エコカー補助金の終了、家電エコポイントの縮小などがあり物の動きが相当落ち込んでいる。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者では法人経営・個人経営ともに仕事が止まっており、取引の動きが少ないとの話が多い。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・民間工事の発注が減少するなか、依然として採算を度外視した破格の見積りや入札をする業者が散見され、正常な価格競争による工事の受注は困難な状況が続いている。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている			
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年末業務の人材需要も数少なく、企業内で人員のやりくりが見受けられる。まだまだ景気の影響による人材需要の増加は少ない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・従来同様、欠員の補充や産休対応はあるものの、業務量の増加などに伴う求人は少ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に大きな変動がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・11月の求人広告は前年同月に比べ約9割の売上であった。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人数は、前年同月比13.5%増加しているものの、正社員求人が増加する気配がない。パート求人数が新規求人数のうち47.0%を占めている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は6か月連続で前年同月比増加しているが、増加幅が小さくなっている。円高懸念もあり先行きは暗い。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・平成23年3月卒業予定者の就職内定数が、前年度と比較すると全体で9%程度減少しており、特に男子学生が約14%減少している。今後の内定状況は厳しいと予想される。
		やや悪くなっている	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き
	悪くなっている	-	-	-